

平成19年7月13日
財団法人日本容器包装リサイクル協会
紙容器事業部

固形燃料化再生処理事業者の重複入札について

1. 再生処理事業者の重複入札に関する規定の改訂

紙製容器包装の再生処理事業者は、従来、同一の保管施設の入札について複数のジョイントを形成し重複入札することが出来ない規定となっていたが、平成20年度の入札以降、選別・材料リサイクル・固形燃料化の再生処理事業者のうち、**固形燃料化の再生処理事業者のみは**、同一の保管施設の入札に関し複数のジョイントに参加のうえ、**一定の条件のもと**重複入札を行うことを認めるものとする。

2. 平成19年度紙製容器包装の登録・入札状況

紙製容器包装の入札は選別・材料リサイクルの再生処理事業者と固形燃料化事業者がジョイントを組んで入札することになっている。平成19年度の登録事業者と入札状況は、以下のとおりである。

登録事業者数	選別事業者56社、材料リサイクル事業者2社、固形燃料化事業者21社
入札対象	93保管施設 34,168トン
入札参加者	43ジョイントグループ 55再生処理事業（選別38，材料1，固形16）
落札	29ジョイントグループ 39再生処理事業（選別25，材料1，固形13）

3. 改訂の背景について

- (1) 選別事業者・材料リサイクル事業者に比べ、固形燃料化事業者数が少ないため、選別事業者・材料リサイクル事業者の中にはジョイントが組めず、入札出来ない事業者が出る可能性があること。
- (2) 近隣に登録された固形燃料化事業者がいるが、既に他の選別事業者とジョイントを組んでいるため、かなり遠方の固形燃料化事業者とジョイントを組まざるを得ない事例が出ていること。
- (3) ジョイント入札では、選別事業者が代表事業者となっているケースが多いが、ジョイントを組もうと思っている固形燃料化事業者が他の選別事業者・材料リサイクル事業者と既にジョイントを組んでいるか否かについては、固形燃料化事業者にヒアリングしないと把握できない。ある保管施設に対しジョイント入札を行おうとしている選別事業者・材料リサイクル事業者と固形燃料化事業者の確認に錯誤が生じ重複入札を行うと、これまでの規定では、その再生処理事業による当該保管施設の入札は失格となるため、ジョイントを構成している双方の再生処理事業者に影響がでること。（今般の改訂によっても、錯誤による重複入札を完全になくすことは出来ないが、重複入札による失格が減少することは期待できる。）

3. 固形燃料化事業者の重複入札に際しての留意事項

- (1) 今般の改訂は、固形燃料化事業者に対する措置である。
- (2) 選別事業者・材料リサイクル事業者の同一保管施設に対する重複入札は従来の規定どおりとし、これを認めない。
- (3) 固形燃料化事業者が、選別事業者あるいは材料リサイクル事業者としても登録されているケースで、当該固形燃料化事業者が他の選別事業者・材料リサイクル事業者とジョイントを組んで固形燃料化事業者として保管施設への入札を行う場合、当該固形燃料化事業者が、自ら選別事業者ないしは材料リサイクル事業者として別にジョイントを組成し、同一保管施設に入札することは認めない。
- (4) 以上の(2)(3)の事例で、同一の保管施設に対し重複入札が行われた場合、その入札は失格となる。

※なお、手法ごとの組み合わせの可否は、別紙「固形燃料化事業者の重複入札の可否について(例)」をご参照下さい。

以上

固形燃料化事業者の重複入札の可否について(例)

1. ジョイント形成の例

ジョイントG	選別・材料リサイクル事業者	固形燃料化事業者
①	A紙工	D商店
②	A紙工	A紙工
③	B紙業	D商店
④	B紙業	A紙工
⑤	C紙業	A紙工

A紙工は、選別・材料リサイクルの登録事業者であり、固形燃料化の登録事業者でもある。

2. ジョイント入札の可否

